

## 第2回生涯学習審議会から「成年期における親の学びについて」

## 協議内容から

## 1 「親の学び」の必要性について

- 子育て真っ最中のお母さんたちは子育てで忙しかったり、仕事で時間がなかったりで機会がないので、今の20歳代、子育て中のお母さんたちが参加できるような仕組みを作ってサポートできれば今から子どもを育てるときに良いのではないか。
- 一番忙しい20歳～40歳の時期に学ぶ場や学ぶ環境を作ってあげることは大事だと思う。
- 子育てに関する視野が狭い。今子育てをしている世代やこれから子育てをする世代に子育てに関するいろいろな学習の場があるとよいと思う。
- 人間関係をつくれない若者が増えているように感じる。親デビュー前の教育が必要ではないか。(中略)親デビュー前の教育ができていない状況の中で親になっている。(中略)親デビューの前にしっかり学ぶことで、そのあとの教育が、さらに良いものになっていくのではないかと思う。
- 乳幼児期の子育て中の保護者の方々に親の学びを行うことが自分が成長するうえで、一番重要なことではないかと思う。

## 2 「親の学び」の課題について

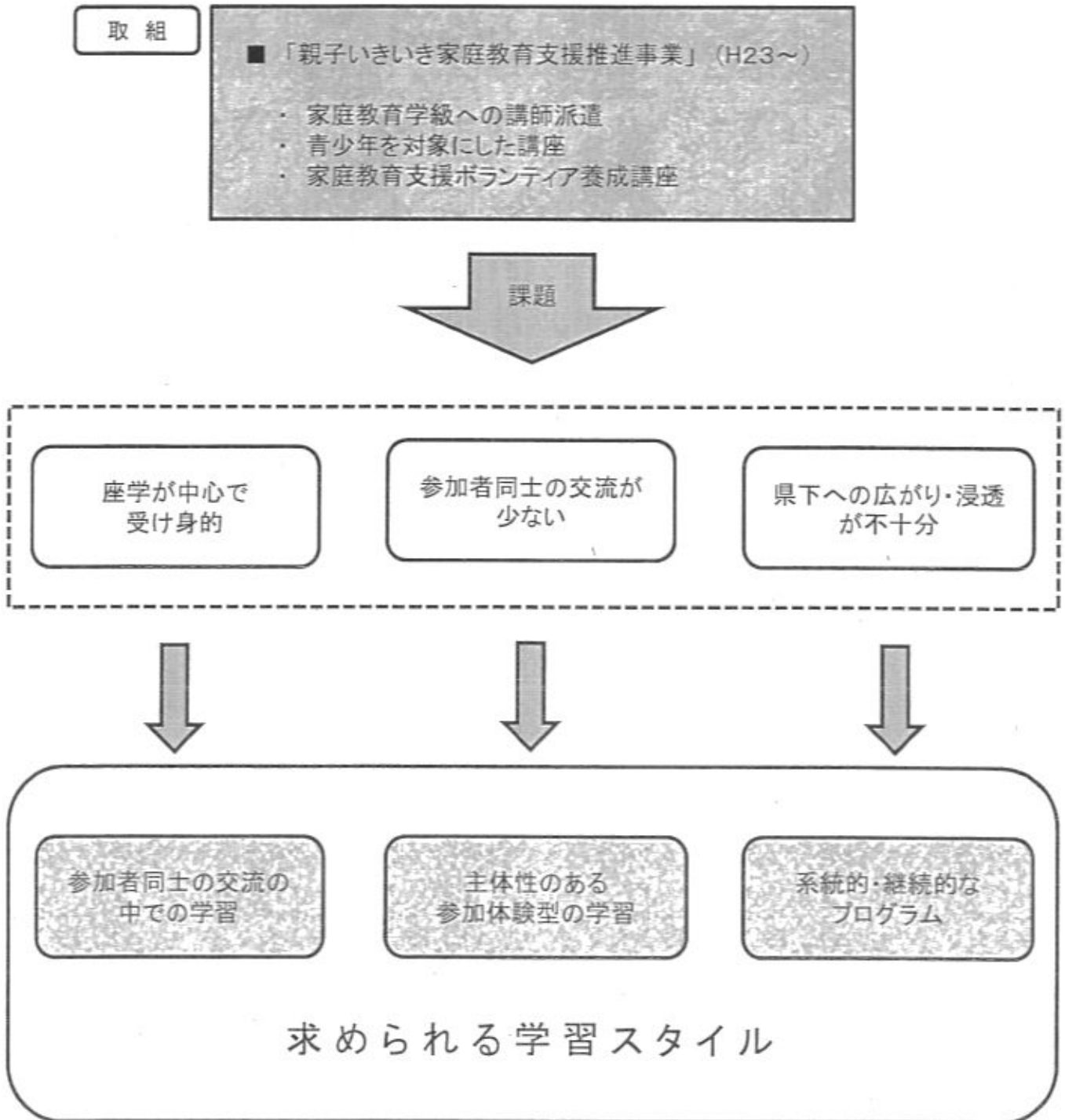
- (ノーマディアに関して)私たちが子育てしている頃は時代の流れで子育てを経験してきて、みんながTVを見始めたころで、TVの影響をあまり考えなかったそうだった時代の子どもたちが今親世代になっている。
- 50歳から60歳代は、子育てについていろいろな経験をしているので、もう少し家庭教育学級等で話す機会があればよいと思っているが、学校に行っても話す機会がない。
- 父親のPTAの行事関係の参加は多いが、子育てに関することに父親が参加していない状況がある。
- 問題なのは親にならない大人。この数が相当な数になってきている。親になっていない人たちをどうするのか、取り残していいのか。地域の中での学びも必要なのではないだろうか。
- お父さん同士のつながりを日常の自然な所に作っていくことが大切だと思う。

## 3 その他

- 家庭教育学級に出かけていくことはできないのか、それを企業研修に組み込まないのか、そういうことをしっかり考えていくことが大切なのではないだろうか。
- (イベント・講座等の周知について)Facebookなど、ネットの活用も含めて、PRの在り方を考える必要があるのではないだろうか。
- 企業の中で働く親は、機会がなかなかつくれない。企業においても親の学びの場があるという宣伝も必要である。
- 生涯学習推進は主にやるのは市町村で、今までやってきた生涯学習のやり方は社会の変化により行き詰まっている。これから先どんなふうになればよいか悩んでいる。

## 家庭教育支援事業の取組と課題

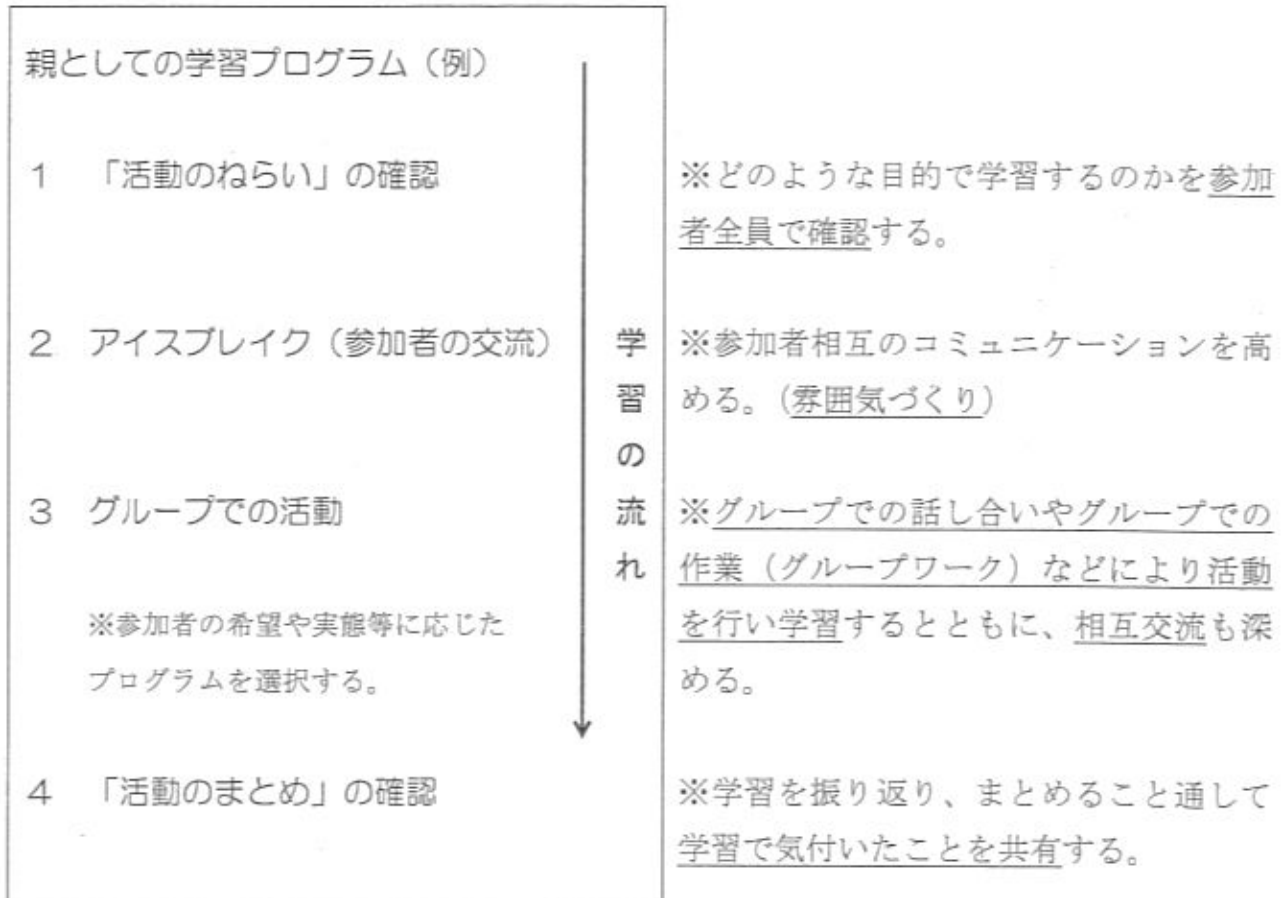
H24.11.15 県生涯学習課



1 「親の学び」の学習スタイル：参加体験型学習（ワークショップ）

講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方的に聞いて学ぶのではなく、参加者が相互に話し合ったり、協力して活動することで、新たな学習や今までの活動を再確認することができる。

2 「親の学び」プログラムの基本構成



3 「親の学び」プログラムの進め方

特別の講師による進行ではなく、プログラムを活用し、教職員やPTA役員、子育てサークル等の指導者、家庭教育支援に関わっている方々が、進行役（トレーナー：仮称）となる。このことにより、講師を招聘することなく身近に学習を進めることが可能となる。



## 「親の学び」プログラム



4 「親の学び」の県民への展開方策

基本的には、誰でも、どこでも活用できる「親の学び」プログラムを作成し、県内への展開を図る。

